SBS CUP 国際ユースサッカー

最終日

SBSカップ国際ユースサッカー（日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催）最終日は19日、草薙陸上競技場で2試合を行った。U―18（18歳以下）パラグアイ代表が、首位に立っていたU―18日本代表を2―1で下し、勝ち点7で優勝した。日本は勝ち点5から伸ばせず2位。静岡ユースはU―18オーストラリア代表と0―0で突入したPK戦を3―4で落とした。勝ち点4の静岡が3位、勝ち点2のオーストラリアが4位だった。大会最優秀選手はパラグアイのジョバンニ・ボガードが選ばれた。

パラグアイ（7）2（0―0 2―1）1 日本（5）

▽得点者【パ】フェルナンデス（ボガード）ベガ（ボガード）【日】宮代（菅原）

【評】日本はパラグアイの速攻を防げなかった。日本は序盤から細かいパス交換で好機をつくったが、決定力を欠いた。得点は後半15分の宮代のゴールのみ。前半39分の福岡のミドルや後半20分の上月のシュートは相手GKの好守に阻まれた。失点はいずれも逆襲から。前がかりに攻めたが、守備の背後を突かれた。

きのうの結果

オーストラリア 0―0 静岡
（PK4―3）
パラグアイ 2―1 日本

▽最終順位 ①U―18パラグアイ代表 勝ち点7②U―18日本代表5③静岡ユース4④U―18オーストラリア代表2

	パラグアイ	日本	静岡	オーストラリア	勝ち点
パラグアイ		2−1	1−1 (PK8−9)	3−0	7
日本	1−2		0−0 (PK3−2)	1−0	5
静岡	1−1 (PK9−8)	0−0 (PK2−3)		0−0 (PK3−4)	4
オーストラリア	0−3	0−1	0−0 (PK4−3)		2

日本、隙突かれV逸

攻め続けるも… パラグアイに1―2

日本の影山監督がロッカールームで選手に伝えた言葉が、試合を物語っていた。「相手からボールをこそぎ取って、球際の戦いに勝って、ゴール前まで攻めた。しかし、決めきれず、隙を突かれて失点した。これを続けてはいけない。こういう試合を制することができるようになろう」。次第に語気が強まる言葉の端々に悔しさがにじみ出た。

球際の激しいパラグアイ相手にも物おじせず立ち向かった。宮代（川崎ユース）と斉藤（横浜FCユース）の2トップが流動的な動きで引き出した縦パスを合図に、後方の選手も攻め上がる分厚い攻撃を展開した。「どんどん仕掛けて相手が怖がるようなプレーはできた」と斉藤。相手守備陣を混乱に陥れたが、ゴール前の精度を欠いた。

U―18の活動は今大会で一区切り。次の舞台は、1学年上の世代と戦う10月に始まるU―19アジア選手権になる。日の丸を背負う以上、内容で圧倒しても負けては意味がない。影山監督は結果の重要性を認識した上で、「楽しみな部分が垣間見えた。（今日のメンバーで）U―19と直接戦わせたいくらい」とこの日の戦いぶりを評価した。優勝は逃したが、メンバー争いへのアピールは十分だった。

（岡田拓也）

U―18日本代表―U―18パラグアイ代表　試合終了間際、フリーキックに飛び込む日本イレブン＝草薙陸上競技場

パラグアイ　球際制しV

日本の宮代のFKがゴールラインを割り、終了の笛が鳴った瞬間、パラグアイの選手たちが歓喜した。激闘を制したモリニゴ監督は「自分たちの力を信じて球際で激しく戦ったことが勝因」と選手たちをたたえた。

後半13分に得点した2分後に失点した。気落ちしてもおかしくない状況で、「そこから懸命に選手が戦った」とモリニゴ監督。日本の猛攻を粘り強く耐え、33分に勝ち越し。大会最優秀選手に選ばれたボガードのスルーパスに反応したベガが決めた。

指揮官は「レベルが高い大会で、日本とハードな戦いをしてタイトルを獲得できた」と満足そうに大会を総括した。

【パラグアイ】4・4・2

小久保	（柏ユース）	GK	ミエルス
菅原	（名古屋ユース）		キンテロ
石尾	（C大阪ユース）		ソサ
三国	（青森山田高）		フェルナンデス
起	（興国高）		アルバレス
井川	（筑波大）		ビジャサンティ
福岡	（京都ユース）		ゴメス
上月	（京都ユース）		ロロン
喜田	（C大阪ユース）		ロドリゲス
宮代	（川崎ユース）		ボガード
斉藤	（横浜FCユース）		ロメロ
	7	SH	6
	2	CK	3
	13	FK	12
	9	GK	5

【日本】4・4・2

▽PK【日】0【パ】0

▽交代【日】安島・大宮ユース（井川）岸本・市船橋高（起）【パ】アルモア（キンテロ）オヘダ（ゴメス）ベガ（ビジャサンティ）ドゥアルテ（ロメロ）オルティス（アルバレス）

静岡、PK戦で豪に惜敗

静岡ユース―U―18オーストラリア代表　後半、相手をかわしドリブルで突破する静岡の神田（右から3人目）＝草薙陸上競技場

オーストラリア（2）0（0―0 0―0）0 静岡（4）
（PK4―3）

【評】静岡は再三の好機を生かせなかった。無得点に終わり、PK戦で敗れた。静岡は前線からプレスを掛け、主導権を握った。前半12分に水野の左クロスを斉藤が合わせたが、シュートは枠を外れた。後半30分の水野のシュートも相手GKの好守に阻まれた。PK戦は2人が失敗した。

多彩な攻撃も不発

静岡には、どこからでも点を取れる気配があった。連動したプレスからの速攻、相手の意表を突くスルーパス、鋭いドリブル突破。個性あふれる攻撃陣が多彩な攻めを展開したが、不発に終わった。渡辺監督は「世界レベル相手に惜しいところまではいくけど、そこからが課題」と悔やんだ。

静岡が逆転優勝するには最低3点差以上の勝利が必要だった。大量点を求め、「前半は攻め焦ったのかもしれない」と渡辺監督。清水主将（静岡学園高）も「前半のチャンスを決めていれば試合の流れをつかめた」と反省する。

見せ場は多かった。大柄なオーストラリア選手を静岡学園高仕込みの技術で手玉に取った身長154㌢の神田は象徴的。何度も会場を沸かせた技巧派は「足元は海外の選手にも通用した。学園らしさは出せた」と胸を張った。

水野（常葉大橘高）のドリブル突破も見応えがあった。大会を通じ、途中出場で攻撃を活性化した八木（清水桜が丘高）も光った。7年間この世代の県選抜を指導してきた渡辺監督は「県内のチームの色が混ざったら面白いと思っていた。静岡らしさは出せたのではないか」と悔しさの中に、満足感も漂わせた。

接戦の良い試合ができた

U―18オーストラリア代表ミリチッチ・アンソニー監督の話　接戦の良い試合ができた。静岡はとてもいいチーム。短いパスもロングパスもうまかった。（最下位に終わり）結果は良くなかったが、良い経験になった。

【オーストラリア】4・3・3

青木	（JFAアカデミー福島）	GK	スマン
鈴木	（常葉大橘高）		イタリアノ
山田	（浜松開誠館高）		トレウィン
平松	（磐田ユース）		キング
菊地	（JFAアカデミー福島）		ケリッチ
清水	（静岡学園高）		ナハリーン
坂本	（藤枝東高）		シルベラ
塩浜	（静岡学園高）		アダム
神田	（静岡学園高）		アクバリ
水野	（常葉大橘高）		ロバーツ
斉藤	（清水ユース）		ナジャール
	10	SH	4
	8	CK	2
	13	FK	9
	1	GK	13

【静岡】4・5・1

▽PK【静】0【オ】0

▽交代【静】梅田・清水ユース（青木）佐野・清水ユース（坂本）松永・清水桜が丘高（塩浜）八木・清水桜が丘高（水野）【オ】マジス（ケリッチ）ディアリーゴ（アクバリ）

平成３０年（２０１８年）８月２０日（月曜日）付け静岡新聞朝刊より